

ぐんまこどもの国児童会館

にこっと通信

nicotto tsu-sin!



にこつとちゃん

2014.1.15

第44号

発行／公益財団法人群馬県児童健全育成事業団

今年もよろしく
お願いいたします!

～群馬県内児童館フェスティバルより～

あけましておめでとうございます

本年もみなさまのご来館を、心よりおまちしております!

ぐんまこどもの国児童会館 スタッフ一同

プラネタリウム新番組★一般番組

「ノーマン・ザ・スノーマン」 ～北の国のオーロラ～

ある冬の夜、「少年」は雪ダルマの「ノーマン」と旅に出た。ノーマンが少年に教えてくれたことを確かめるために。

全編にわたって1コマずつ丁寧に撮影された人形アニメーションで描く、珠玉のプラネタリウムファンタジー作品です。是非、ご家族の皆さんでお楽しみください。

上映時間 平成25年12月14日(土)
～平成26年3月2日(日)

平日 15:30～

土日祝・長期休暇 13:00～、15:00～



©TAIYO KIKAKU co.,Ltd./EXPJ.Ltd

「しょこたんのワンダー宇宙」

宇宙好き、プラネタリウム好きを自他ともに認める、「しょこたん」こと中川翔子さんプロデュースの作品です。星座とともに宇宙のスケールの大きさと地球外生命体への期待など、興奮とときめきがたくさんつまった作品です。是非みなさんもしょこたんパワーを感じにプラネタリウムを観に来てね!!

上映時間 平成26年3月8日(土)
～平成26年6月8日(日)

平日 15:30～

土日祝・長期休暇 13:00～、15:00～



配給:コニカミノルタプラネタリウム(株)

スペシャル
サイエンスショー

「らんま先生のeco実験パフォーマンスショー」



環境や科学のことを手品・ジャグリングなどで楽しくパフォーマンスして見せてくれる、らんま先生の登場です!テレビでの活躍や年間約200回以上のパフォーマンスを誇るショーは必見です。

日時 3月1日(土) 13:00～/15:00～
(各回約45分、各回30分前より入場開始)

会場 多目的ホール

定員 各回300名

※子どもには科学キットの配布があります
(事前受付順 各回200名分)

事前申込
1月17日(金)～

講師 らんま先生

NPO法人eco体験工房代表、ガリレオ工房所属、元教員、
環境大臣認定環境カウンセラー、環境パフォーマー



休館日

1月…14日(火)・15日(水)・20日(月)・27日(月)

2月…3日(月)・10日(月)・17日(月)・24日(月)

3月…3日(月)・10日(月)・17日(月)・24日(月)

★春休み中の月曜日は休まず開館します



ぐんまこどもの国児童会館

〒373-0054 群馬県太田市長手町 480
TEL. 0276 (25) 0055 FAX. 0276 (25) 0059
URL <http://www.kodomonokuni.or.jp/>

児童館職員交流研修会

11月8日、群馬県内各地にある児童館の先生50人が集まり、
簡単マジックや手遊び等の研修会と、日頃の児童館活動における情報交換を行いました。



児童館職員や放課後児童クラブの指導員を対象とした研修会は、講義と実技をあわせて年に数回行っていますが、今回は実技研修会ということで、みんないきいきと笑い声の絶えない会になりました。



講師は、人形劇コロ団代表のBUNちゃんこと荒木文子さん。とってもおしゃれでユニークで、手遊びやマジックもあつという間にBUNちゃんワールドの魅力に引き込まれてしまいます。

その中から、お家でもできそうなマジックをご紹介します。うまくいくコツは、何度も練習して体になじませ、好みにアレンジして自分のものにするのだそうです。ぜひやってみてくださいね。

わっかのマジック

【用意するもの】

約2cm×30cmの紙 3本、ハサミ、のり or テープ

1

「3つの“わ”を作ったよ!」



2

「にんじん色のわっかほしいなー」
「いいよ。でもひとつしかないから
チヨキチヨキ…」



3

「はい、ふたつの“わ”できあがり!」
「わーい、ありがとう!」



4

「ピンクのわっか、くびかざりにしたいけど、
小さいかなー」
「まかせて!」
チヨキチヨキ…」



5

「はい、大きな“わ”できあがり!」
「すてき、ありがとう!」



6

「そのわっか、手錠に使えるかな」
「手錠だね…」
チヨキチヨキ」



7

「大成功!」
手錠みたいにつながったよ」



8

「ありがとう!」
「もう悪い事しちゃだめだよー」



たねあかし

ふたつの“わ”



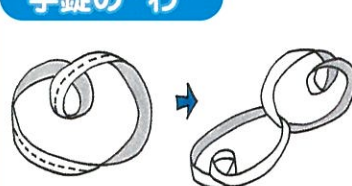
のりやテープでとめて輪を作り、
中心にそって切る。

大きな“わ”



1回ひねって輪を作り、中心にそって切る。

手錠の“わ”



2回ひねって輪を作り、中心にそって切る。

「絵から見る、子どもの発達、子どもの心」

9月13日のいきいきママ講座では、関東短期大学講師で臨床心理士の桑原千明先生をお迎えし、「絵から見る、子どもの発達、子どもの心」をテーマにお話をいただきました。内容を抜粋して紹介します。



なぜ子どもは絵をかくのか？

絵は自分の思いを伝えるコミュニケーション手段の一つで、子どもからのメッセージとも言えます。また、言葉で表せないことも「かく」という「活動そのもの」が心の解放・発散になっていることもあります。

絵から見る子どもの発達

子どもの絵の表現の発達は基本的には規則的で同じ発達の筋道をたどりますが、もちろん子どもによって個人差があります。そして、絵をかいている時に一緒にいる大人がどれだけ子どもによりそっているかがとても大事です。

子どものかく絵によりそうには

大切なのは子どものかく絵に興味をもつこと。かいている時、かいた絵をもってきた時に、積極的に話しかけましょう。「おもしろい絵だね」「これは何かな」…これは、言葉の発達を促すことにもつながります。子どもの絵は子どもからのメッセージですので、自分の表現が受け止められるという経験を積み重ねてあげてください。また、絵などの表現からのみ子どもを判断することは避け、日常生活の出来事と結びつけた理解をするようにしましょう。どうしても気になった時にはお近くの専門家に話をしてみるのもよいかもしれません。日頃からすぐに取り出せるところにお絵かきセットを置いておくなど、絵をかきやすい環境づくりをすると良いと思います。



講座では、参加者が「スクイグルゲーム」にも挑戦しました。これは2人1組になって、まずどちらか1人が意味のないあいまいな図をかき、もう1人がその図に自由にかき加えて、絵に仕上げるというもの。思いがけずユニークな作品ができあがり、初対面のママたちも大いに盛り上がりました。子どもとの遊びにもすぐに取り入れられそうです。ぜひ、コミュニケーションツールの一つとして、絵をつかって楽しんでみてくださいね。



「簡単アレンジ！子どものヘアカット＆ヘアメイクに挑戦」



10/11(金)のママ講座は、群馬県美容専門学校で田上聖晃先生を講師にお招きして「子どものヘアカット＆ヘアメイク」をテーマに、プロならではの技とコツを家庭でも生かせるように分かりやすく丁寧に教えて頂きました。

まずは、ヘアカットの方法。実際にマネキンを使って実習していきます。セニングバサミ(スキバサミ)は斜めに入れると良い事、セニングで量をすいてから→普通のハサミで長さを整える、の順番でカットする事、前髪は乾いた状態でカットする事…などを教えてもらいます。特に前髪はピースした2本の指ではさんで、おでこにつけるように下げて切ると「重め」、床と平行になるくらいに上げて切ると「軽め」になる、というコツを聞いて、ママたちは熱心にメモをとっていました。すぐに実践できそうです。

後半はおよばれや発表会等、ちょっぴりおめかしする時に活躍しそうなヘアアレンジ技を学びました。一部を紹介しますので、ぜひみなさんも参考にしてみてくださいね。“ママはおうちの美容師さん”、髪をさわる時間も楽しいスキンシップのひとつですよ！



男の子用アレンジ ～ワックスのつけ方～



- ①自分の爪より少し大きい程度の量を指先にとり、両手の平全体と指の間にまんべんなくなじませる。
- ②髪の下→上に向かってつけ、どんなスタイルでも最初は“スーパーサイヤ人”状態にボリュームを出す。
- ③タイトにするところだけおさえる。(例えばモヒカン風の場合、トップはボリュームを出したままサイドはおさえる)前髪は手に残ったワックスで最後に整える。



女の子用アレンジ ～お花の三つ編み～



- ①大人の親指くらいの太さの毛束を地肌から取り、三つ編みを5回程度編む。
- ②編み目の右側片方だけを指で引き出す。
- ③①②の三つ編み～引き出す、を毛先までくり返して最後は逆毛を立てて止める。
- ④毛先を中心に、引き出した右側が外に向くようにくるくる丸めて、ピンでとめると…まるでお花のコサージュのようなアレンジに♪



第22回

ぐんま
こどもの

夢大賞

入選
作品

「ぐんまこどもの夢大賞」は、児童文化の振興を図る目的で、群馬県と当児童会館の運営主体である公益財団法人群馬県児童健全育成事業団の共催で毎年行っています。18歳未満を対象とした絵画と、小学生以上18歳未満を対象とした童話の2部門を夏休みに合わせて募集を行い、今年も絵画7,900点、童話461点というたいへん多くの皆様から作品をいただきました。

審査の結果、絵画は最優秀賞3点、金賞16点、銀賞24点、銅賞40点、奨励賞100点が、童話は最優秀賞1点、金賞2点、銀賞7点、銅賞8点、奨励賞10点が入賞しました。

ここでは、最優秀賞を受賞したみなさんの作品とインタビューを紹介します。



★インタビュー内容★ ①受賞を知ったときの気持ち ②制作時間 ③どうしてこの作品をかこうと思ったか
④次は何をかきたい? ⑤将来の夢 ⑥保護者のことば

絵画



群馬大学教育学部附属幼稚園(5歳)

かな やま

あお

金山

蒼さん

「ぼくのいえのおおきなざりがに」



① うれしかった。

② 4～5日

③ ざりがにが好き。ざりがにの、はさみで
はさむところが強くてかっこいいと思う。

④ 車か野球の絵

⑤ 野球の選手。ニューヨークヤンキースが好き。

⑥ びっくりしました。絵を描くのが好きです。



邑楽町立中野小学校(3年)

ね だち
根立 すみれ さん

「七夕のえんそう会」



- ① 2年連続だったのでびっくりしました。
- ② 3日間
- ③ ピアノが好きで、宇宙も好きだから。

- ④ 宇宙ステーションに行く絵が描きたい。
- ⑤ 宇宙飛行士
- ⑥ 2年連続はびっくりしました。これからも宇宙が好きなので、宇宙を題材にした絵を描いていってもいいかなと思います。宇宙少年団にも入っていて、イプシロン打ち上げの時にJAXAで応援もしました！



伊勢崎市立三郷小学校(5年)

さいとう ち さき
齊藤 千咲 さん

「絵本作家になりたい」



- ① 「うそだろう」と思った。
- ② 1カ月弱くらい。
- ③ 夢の絵がテーマだったので、すぐにこの場面が思い浮かびました。

- ④ その場その場で描きたいものを描いていきます。
- ⑤ もちろん絵本作家!!です。
- ⑥ よかったね!!せっかく描くならその絵に入り込むような気持ちで描いてほしいと思っていましたが、その気持ちで描けたかなと思いました。



がんばれ!! 群馬のものづくり ～幻の旅客機富嶽登場～



9月23日「がんばれ!群馬のものづくり～幻の旅客機富嶽登場～」が開催されました。

太田市の元エンジニア団体『夢工場おおた』協力のもと、富嶽のラジコン飛行機2機が多目的ホールに登場!中島飛行機の残された図面をもとに作成したこの富嶽、ラジコンと言っても約4m×3mもある姿は迫力があったて本当にかっこいいです。会場は早い時間からたくさんの家族連れで賑わいました。特にこの日は三世代で訪れている姿も目立ち、お孫さん連れのおじいちゃんが熱心に質問している光景も見られました。

イベントは展示のほかにも紙飛行機作りや紙飛行機飛ばし大会、シミュレーターゲームなど盛りだくさんの内容でした。紙飛行機やシミュ

レーターゲームも夢工場おおたのメンバーさんによる、完全オリジナルでとっても精巧!体験してくれたお友だちは、満足そうな笑顔を見せてくれました。

イベントのトリには、児童会館の入口へ富嶽を移動して、エンジンをかけるデモンストレーションも行いました。その音の迫力にみんなびっくり。そして、なんと最後には『夢工場おおた』の皆さんのはからいで、機体に児童会館のにこっとちゃんシールを貼って頂きました!これから、富嶽が飛行する機会にはにこっとちゃんも一緒に大空を飛ばせてもらえると思うとわくわくします!



こどももの国 ダンス教室

中高生のためのストリートダンスレッスン



10月6日に中学生・高校生向けのストリートダンス教室を開催しました。教えてくれたのは「StarProjectDanceSchool」ダンスインストラクターのYUKIE先生。この日、児童会館の多目的ホールには約20名の中高生が色々な学校から集まってくれました。

ダンスが好きだけど本格的にヒップホップを習うのは初めて、という参加者のみんな。最初はどこかぎこちない雰囲気でしたが、先生のかげ声と音楽に合わせて体をほぐしていくうちにだんだんリラックスしてきました。ヒップホップのリズムに自然と体が動いて、会場が若い熱気であふれます。ストレッチから始まり、ステップのレッスン、最後はEXILEの曲のサビに合わせて振り付けるところまで…約90分の限られた時間の中で、みるみるうちに形になっていきました。そのアタマとカラダのやわらかさに感動、かっこいいです!

今後も、中学生や高校生の皆さんにも児童会館を楽しんでもらえるような企画を考えていきたいと思っておりますので、ぜひご参加ください。



地域子育て支援者講習会

心を育むわらべうた



地域の子育て支援者を主な対象とした本講座ですが、今年は「高崎まめっちょの会(わらべうたとお話の会)」を主宰する高橋静代さんを講師に迎えて開催しました。

冒頭に、最近は手が握れない、人との距離感が分からないという子どもが増えているが、わらべうたは、自分の

声を直に使いふれ合う事ができる、子どもの成長の基礎を養うと考えられているとお話でした。また、歌詞は一緒でも、遊びが違ったり、イントネーションの違いでメロディが異なったりしますが、どれが正しいという事はなく、地域性が強いのもわらべうたです。日本人の習慣や自然、世界観、歴史などをことばのリズムに残している貴重な文化でもあります。

そんなお話を交えながら、高橋先生の美しい歌声のわらべうたにのせて、参加者皆さんが楽しくふれ合い遊びをしました。じゃんけん遊びもたくさん種類があり、「たけのこめだした」「ちょっとばらさん」「お月さんこんばんは」を皆さん身振り手振りを交えながら教わりました。

「ふるさととめて」では、昔を思い出しながら、「はないちもんめ、あの子がほしい～」と手を繋ぎながら大きな声で歌ったり、「あずきあずき」は鬼ごっこに真剣になりました。

体をたくさん動かし笑顔になった参加者からは、教えていただいたたくさんのわらべうたを、子育て支援の現場で実践して子どもやお母さん達に伝えていきたい、という多くの声が聞かれました。

